

<学校教育目標> <目指す学校像>		いのちを大切にし、自ら学び、心身ともにたくましい子供の育成 ◎楽しく活気に満ちた学校 ◎自他を大切にする学校 ◎保護者に信頼され、地域に応援される特色のある学校	
ぬ ぬくもりのあることも	ま まなびつづけることも	つ つよくたくましいことも	こ こころをこめてあいさつすることも

夏休みはお子さんと共に豊かな体験を・・・

私の子供時代は、時間がゆったり流れていたような気がします。夏休みの早朝のクワガタ捕り、夕方暗くなるまでの野球、空き地や公園でのかくれんぼ、鬼ごっこ、缶蹴りなど様々な光景が、何十年経っても鮮やかに甦ってきます。

一方で、今の子供たちは、忙しくて遊ぶ時間もないと言われています。かつてのように仲間とのトラブルで、けんかをしたり仲直りをしたりするような、実体験を重ねて人間関係を学ぶ機会も失われています。そういう今だからこそ、子供時代に「三間(空間・時間・仲間)」を通した原体験が大切ではないかと思っています。因みに原体験教育研究会では、原体験の対象を「火・石・土・水・木・草・動物・ゼロ」の8つで定義しています。

①「火」の体験・・・火をつける、消す、煙が目にしみる、熱さを感じるなど。

火のありがたみや怖さ、人類だけが火を使えることなどが学べます。

②「土」の体験・・・土や砂に触る、掘る、こねるなど。

土の手触りや匂い、虫が出てくるなどが学べます。

③「石」の体験・・・石に触る、見る、投げる、積み上げるなど。

形や重さ、色、模様の違いなどが学べます。

④「水」の体験・・・水に触れる、泳ぐ、飛び込むなど。

水の温度やしびきの勢い、泳ぐ感覚、足がつかなくなる怖さなどが学べます。

⑤「木」の体験・・・木に登る、触る、匂いを嗅ぐ、葉や幹を見るなど。

自然の生命力や新緑・紅葉の美しさ、実がなる、素材としての木目、年輪の意味が学べます。

⑥「草」の体験・・・匂いを嗅ぐ、笹舟や笹笛を作るなど。

草の手触り、形や模様の違い、服に付くと汚れが取れない、肌を傷つけることがある、自然の生命力などが学べます。

⑦「動物」の体験・・・触る、エサをあげる、鳴き声を聞く、匂いを嗅ぐ、飼育するなど。

命の尊さ(死があること)、生命力、愛情、思いやり、死(悲しみ)を乗り越えるなどが学べます。

⑧「ゼロ」の体験・・・雨、風などの自然・暗闇の怖さや空腹を感じる、美しいものを見るなど。

自然の脅威やありがたみ、電気、ガスなど科学技術のありがたみを知る、美しい、寂しい、怖い、空腹、渇き、暑さ、寒さといった感覚を知るなどが学べます。



子供にケガや失敗はつきものだとはわかってはいても、つい危険から遠ざけてしまうのが親心。わが子を大切に思うほど、「ほら、危ないから高いところに登っちゃダメ!」「そんなことしたらケガするよ!」と、口を酸っぱくして言ってしまうがちです。しかし、安全な場所にずっといるわけにはいきません。子供はいずれ大きくなり、やがて自分の力で困難や危険を乗り越えなければならないのです。まさに「可愛い子には旅をさせよ」です。

国立青少年教育振興機構の調査によれば、自然体験の経験が多いほど「今の自分が好き」「勉強は得意なほうだ」「自分らしさがある」など、自己肯定感が高いという結果が出たそうです。さらに、信州大学の平野吉直教授によると、自然体験活動をたくさん行なった青少年は、課題解決能力や豊かな人間性など「生きる力」があるといいます。自然体験によって好奇心や探究心が刺激され、わからないことはそのままにせず調べる、誰とでも協力し合える、相手の立場に立って物事を考えられる、というプラスの作用がはたらくそうです。

いよいよ子供たちが楽しみにしている夏休みです。子供たちには、やってみたいことに大いにチャレンジしてほしいと思っています。